

PCT

国際予備審査報告

(法第12条、法施行規則第56条)  
(PCT36条及びPCT規則70)

REC'D 07 DEC 2001

WIPO PCT

出願人又は代理人 書類記号 PCT/439	今後の手続きについては、国際予備審査報告の送付通知(様式PCT/ IPEA/416)を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP00/05641	国際出願日 (日.月.年) 23.08.00	優先日 (日.月.年) 26.08.99
国際特許分類(IPC) Int. Cl <sup>7</sup> H01F 1/00, H05K 9/00		
出願人(氏名又は名称) エフ・ディー・ケイ株式会社		

1. 国際予備審査機関が作成したこの国際予備審査報告を法施行規則第57条(PCT36条)の規定に従い送付する。
2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 3 ページからなる。
- ☒ この国際予備審査報告には、附属書類、つまり補正されて、この報告の基礎とされた及び/又はこの国際予備審査機関に対してした訂正を含む明細書、請求の範囲及び/又は図面も添付されている。  
(PCT規則70.16及びPCT実施細則第607号参照)  
この附属書類は、全部で 1 ページである。

3. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。
- I ☒ 国際予備審査報告の基礎
  - II ☐ 優先権
  - III ☐ 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成
  - IV ☐ 発明の単一性の欠如
  - V ☒ PCT35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
  - VI ☐ ある種の引用文献
  - VII ☐ 国際出願の不備
  - VIII ☐ 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 23.03.01	国際予備審査報告を作成した日 22.11.01		
名称及びあて先 日本国特許庁(IPEA/JP) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官(権限のある職員) 酒井 朋広	5 R	8935
電話番号 03-3581-1101 内線 3565			

様式PCT/IPEA/409(表紙)(1998年7月)

## I. 国際予備審査報告の基礎

1. この国際予備審査報告は下記の出願書類に基づいて作成された。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に  
 応答するために提出された差し替え用紙は、この報告書において「出願時」とし、本報告書には添付しない。  
 PCT規則70.16, 70.17)

☐ 出願時の国際出願書類

☒ 明細書 第 1-11 ページ、 出願時に提出されたもの  
 明細書 第 \_\_\_\_\_ ページ、 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの  
 明細書 第 \_\_\_\_\_ ページ、 \_\_\_\_\_ 付の書簡と共に提出されたもの

☒ 請求の範囲 第 2-7 項、 出願時に提出されたもの  
 請求の範囲 第 \_\_\_\_\_ 項、 PCT19条の規定に基づき補正されたもの  
 請求の範囲 第 \_\_\_\_\_ 項、 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの  
 請求の範囲 第 1 項、 26.07.01 付の書簡と共に提出されたもの

☒ 図面 第 1-6 ~~ページ~~/図、 出願時に提出されたもの  
 図面 第 \_\_\_\_\_ ページ/図、 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの  
 図面 第 \_\_\_\_\_ ページ/図、 \_\_\_\_\_ 付の書簡と共に提出されたもの

☐ 明細書の配列表の部分 第 \_\_\_\_\_ ページ、 出願時に提出されたもの  
 明細書の配列表の部分 第 \_\_\_\_\_ ページ、 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの  
 明細書の配列表の部分 第 \_\_\_\_\_ ページ、 \_\_\_\_\_ 付の書簡と共に提出されたもの

2. 上記の出願書類の言語は、下記に示す場合を除くほか、この国際出願の言語である。

上記の書類は、下記の言語である \_\_\_\_\_ 語である。

- ☐ 国際調査のために提出されたPCT規則23.1(b)にいう翻訳文の言語  
☐ PCT規則48.3(b)にいう国際公開の言語  
☐ 国際予備審査のために提出されたPCT規則55.2または55.3にいう翻訳文の言語

3. この国際出願は、ヌクレオチド又はアミノ酸配列を含んでおり、次の配列表に基づき国際予備審査報告を行った。

- ☐ この国際出願に含まれる書面による配列表  
☐ この国際出願と共に提出されたフレキシブルディスクによる配列表  
☐ 出願後に、この国際予備審査(または調査)機関に提出された書面による配列表  
☐ 出願後に、この国際予備審査(または調査)機関に提出されたフレキシブルディスクによる配列表  
☐ 出願後に提出した書面による配列表が出願時における国際出願の開示の範囲を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった  
☐ 書面による配列表に記載した配列とフレキシブルディスクによる配列表に記載した配列が同一である旨の陳述書の提出があった。

4. 補正により、下記の書類が削除された。

☐ 明細書 第 \_\_\_\_\_ ページ  
☐ 請求の範囲 第 \_\_\_\_\_ 項  
☐ 図面 図面の第 \_\_\_\_\_ ページ/図

5. ☐ この国際予備審査報告は、補充欄に示したように、補正が出願時における開示の範囲を越えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c) この補正を含む差し替え用紙は上記1.における判断の際に考慮しなければならず、本報告に添付する。)

## V. 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

## 1. 見解

新規性(N)	請求の範囲	1-7	有
	請求の範囲		無
進歩性(IS)	請求の範囲		有
	請求の範囲	1-7	無
産業上の利用可能性(IA)	請求の範囲	1-7	有
	請求の範囲		無

## 2. 文献及び説明(PCT規則70.7)

1. JP 10-290094 A (日本ペイント株式会社),  
27. 10月. 1998 (27. 10. 98) (ファミリーなし)  
シリコン系樹脂に軟磁性粉体(フェライト系、金属系)を混合した電波吸収材が記載されている。
2. JP 2000-200990 A (大同特殊鋼株式会社),  
18. 7月. 2000 (18. 07. 00) (ファミリーなし)  
金属系軟磁性粉体の形状が球形である一例。
3. JP 11-335472 A (富士高分子工業株式会社),  
7. 12月. 1999 (07. 12. 99) (EP 945916 A2)  
軟磁性シートの表面が粘着性を有し、少なくとも片面に軟磁性金属からなる導電性シートを設けたことが記載されている。また、シリコンゲル性のシートは低硬度である(公報第3頁左欄49~50行)から、周囲の形状に合った配置が可能である。
4. JP 9-205011 A (株式会社ブリヂストン),  
5. 8月. 1997 (05. 08. 97) (ファミリーなし)  
必要に応じて非磁性無機物粉体を混合したことが記載されている。

## 請 求 の 範 囲

1. (補正後) シリコーン系樹脂に軟磁性粉体を混合して成形されたシートであって、対象物品の表面に押し付けた際に弾性変形し、そのシート表面が対象物品の表面形状に沿った形状に変形するような軟らかさを持つ軟質性シート
- 5 からなることを特徴とする電波吸収熱伝導シート。
2. 前記軟磁性粉体は、フェライト系軟磁性粉体、金属系軟磁性粉体の少なくとも一方であることを特徴とする請求の範囲第1項に記載の電波吸収熱伝導シート。
3. 前記金属系軟磁性粉体が、パーマロイ、センダスト、ケイ素鋼、パーメン
- 10 ジュール、純鉄、磁性ステンレス鋼のいずれか1つ以上であって、  
その形状が、球形または扁平状粒子形状からなることを特徴とする請求の範囲第2項に記載の電波吸収熱伝導シート。
4. 前記軟質性シートの表面が、粘着性を有することを特徴とする請求の範囲第1項から第3項のいずれか1項に記載の電波吸収熱伝導シート。
- 15 5. 導電性シートの両面或いは片面に、前記軟質性シートを設けたことを特徴とする請求の範囲第1項～第4項のいずれか1項に記載の電波吸収熱伝導シート。
6. 前記導電性シートが、軟磁性金属からなることを特徴とする請求の範囲第5項に記載の電波吸収熱伝導シート。
- 20 7. 前記軟質性シートに、非磁性無機物粉体を混合してなることを特徴とする請求の範囲第1項～第6項のいずれか1項に記載の電波吸収熱伝導シート。